

保育者養成校における音楽指導法の研究—第7報—

～主に「音楽あそび」の指導法について～

中村 浩美・白石 景一

The Study of Music Teaching Method at Training School for Child-Care Works Report 7.
mainly about the way to teaching of Music play

Hiromi NAKAMURA・Keiichi SHIRAISHI

キーワード：ピアノ初心者・保育者養成・音楽指導法・コード伴奏法・音楽あそび

1. はじめに

平成17年度、長崎女子短期大学紀要に「保育者養成校における音楽指導法の研究—第1報—」とし、本学幼児教育学科専門科目「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の指導法についてとりあげ、その現状と評価、指導上の要点、今後の研究の方法や方向性（平成20年頃から自己点検評価→第三者評価などで義務化されたPDCAサイクルによる方法・考え方を先取りし実施してきた）などについて報告した。

平成18年度はこの継続研究—第2報—として「ピアノ初心者などの指導法」を主に取り上げ、本学幼児教育学科のピアノ初心者や音楽が不得手な学生に対する「指導実践の内容」や「新たな試み」などについて幼児教育学科専門科目「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「幼児音楽指導法」の指導法を中心に報告した。

平成19年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第3報—」として第2報に引き続きサブテーマ「主にピアノ初心者の指導法について(2)」として平成18年度から「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「幼児音楽指導法」において新たに実施した指導法などの評価や課題とその対応・改善の報告と、「音楽基礎ゼミナール」「2オクターブスケールと易しいカデンツ」「マーチアルバム」「カリキュラムの改訂」「ソナチネアルバムに代わる教材」「幼児音楽指導法(保育内容)・音楽Ⅰ・音楽Ⅱの連携」

などについて報告した。

平成20年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第4報—」として、これまでの評価・改善などに対するの検証と「音楽Ⅱ」における「音楽遊び」の指導内容・方法についても報告した。

平成21年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第5報—」サブテーマ「主にピアノ初心者の指導法について(3)」として平成17年度からの継続的授業評価と改善への検証について報告した。また、かねてからの課題であったピアノ初心者への「和音コード利用による簡易伴奏法の指導」についての新たな試みについても報告した。

平成23年度は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第6報—」サブテーマ「主にピアノ初心者の指導法について(4)」とし、「子どもの歌と伴奏法」としての初年度でもあるので、コード伴奏法の教育効果や課題などについて検証も含め、1年間の振り返りを報告した。

平成24年度（本年度）は、「保育者養成校における音楽指導法の研究—第7報—」サブテーマを「主に音楽あそびの指導法について」とし、幼児教育学科専門科目2年次開講の「保育と音楽表現」における「音楽あそびの指導法」についての研究報告を行う。

2. 昨年度実施指導法の評価と課題への対応・改善

全ての教育活動に於いて、計画→試みる→評価する→課題を見つける→対応・改善を検討→計画する。この繰り返しは常に行われてしかるべきである。17年度紀要から授業改善の報告を継続しており今年度（24年度）も前年度からの試みやこれまでの取り組みに対しての評価と課題、これに対する対応・改善について以下に報告する。

2.1 子どもの歌と伴奏法（旧「音楽Ⅰ」）・保育と音楽表現（旧「音楽Ⅱ」）レッスン記録について

平成18年度より実施し6年目になり定着したと言える。以下に〔課題・問題点〕〔対応・改善〕を番号対応形式で報告する。

〔課題・問題点〕

- ①記録用紙は厚紙であるため印刷機での印刷が困難である。
- ②まだ、記録をきちんと書けない学生がいる。
〔対応・改善〕
- ①本年度は旨く印刷ができずに、急きょキャリア支援センターのプリンターで印刷をお願いした。
- ②記録についても評価の対象であることを学生に伝える必要がある。

2.2 音楽基礎能力テストの実施

昨年度の反省から、音符の知識について簡単なテストを実施したが、この結果によって「音楽基礎ゼミナール」の受講者選抜を行うことはやめて、「子どもの歌と伴奏法」（ピアノ個人指導）スタッフにより行った。

2.3 幼児教育学科専門教育科目「子どもの歌と伴奏法」

平成23年度は、22年度よりさらに初心者、もしくは自称経験者と言っても初心者レベルの学生が多く、試験の曲数も昨年度より減らし確実に仕上げられることを目的に進捗レベルを落とした。その結果としてやはり、全体的には到達度は22年度より低くなってしまった。その反省を元に、本年度（24年度）は、なるべく子どもの歌の、試験の

際にも1曲でもエチュードを取り上げるよう計画し、科目担当スタッフへ提示した。以下にテスト日程と課題曲の計画を掲載する。

【H24年度「子どもの歌と伴奏法」テスト日程と課題曲】

①5月14日（月）

* 5指のみの弾き歌い

♪ちょうちょう Fdur ♪おかたづけ Gdur

♪ぶんぶんぶ Ddur ♪かっこう Cdur ♪

メリーさんのひつじ Fdur

コード奏法

*コード カデンツ Cdur Fdur Gdur

②6月18日（月）

* 5指+αの弾き歌い（200選より）

♪むすんでひらいて Cdur ♪ロンドンばし

がおちる Fdur ♪ごあいさつ Fdur ♪おて

てをあらいましょう Ddur ♪かえるのがっ

しょう Gdur

*エチュード1曲（バイエル前半でも行う）

③7月23日（月）

*エチュード

*コード カデンツ Ddur Bdur amoll

夏休みの課題（200選より）

♪エチュード ♪おはようのうた ♪おべん

とう ♪はをみがきましょう ♪おかえりの

うた ♪アイスクリーム

♪アニメ曲（コード）2曲

④10月2回目の授業

*夏休みの課題曲 弾き歌い・エチュード・

コード（アニメ曲）

⑤11月26日（月）

♪これまでの弾き歌いの課題曲15曲の中より

1曲を一人が伴奏、一人が歌う

（必ず伴奏も歌も演奏する）

冬休みの課題（プリント・200選）

♪エチュード ♪おはようのうた2曲（プリ

ント） ♪さよならのうた（プリント） ♪ぞ

うさん ♪やぎさんゆうびん ♪おつかいあ

りさん

♪アニメ曲（コード）2曲

⑥H25年1月21日（月）

*冬休みの課題曲 弾き歌い・エチュード・コードアニメ曲

結果としては、少し盛りだくさんではあるがこれをこなしていけるように来年度も継続したい。

今年度の新たな試みとして、前期に「弾き歌い」のテストで演奏した「子どもの歌」を同グループ学生の伴奏で独唱するスタイルでのテストを実施した。初めての試みであったが、伴奏においては、止まっていけないという指導がなぜなのかが身にしみて感じられ、独唱についても、日頃の歌唱指導の大切さが実感でき非常に効果的であった。

5指のみで演奏可能な「子どもの歌」や6音で演奏可能な「子どもの歌」の弾き歌いについては、調性や「コード伴奏法」の授業とのリンクを更に検討する必要がある。

2.4 コード伴奏法

昨年度の反省から本年度はあまり、理論的なことはさておき、左手でのカデンツ（I IV V V₇ I）をC、F、G、B_b、D、Am、で弾くことを先ず練習させ、6月にテスト。7月の試験では「勇気りんりん」「さんぽ」を学生それぞれが工夫してコード伴奏により発表した。

また、24年度（本年度）長崎女子短期大学独自の「コード伴奏法」テキストを作成。（2月完成予定）

2.5 音楽基礎ゼミナール

昨年度の反省（出席率の低下、時間割の過密化、講義形式の効果に疑問等）から、本年度（平成24年度）は、特に初心者で正規の授業（子どもの歌と伴奏法）の授業だけでは進度がままたまらない学生を授業担当スタッフに選抜をお願いしレッスンを補う形で「音楽基礎ゼミナール」を実施した。受講した学生はその後軌道には乗っていたようではある。

参加人数 11名

授業内容 計4回のピアノ個人レッスン。

2.6 ピアノ独奏・連弾楽譜およびCD・メトロノームの貸し出しロッカー設置

平成19年度より実施した「楽譜・CD・メトロノームの貸し出し」は学生は大いに利用しており、さらなる充実が求められる。昨年度の課題により、CDデッキを購入した。

カセットからMDの時代になったかと思いきや現在ではMDウォークマンやポータブルMDデッキは家電売り場から姿を消しつつある。意外に生録音は数年前の方が簡単に可能であったのではないか。今後、子どもの歌の楽譜やCDを充実させていきたいと考える。

2.7 幼児教育学科専門科目「保育と音楽表現」

昨年度の課題を踏まえシラバスの見直しを行い「子どもの歌と伴奏法」と同様に年間計画を作成し指導スタッフに配布した。

【H24年度「保育と音楽表現」テスト日程と課題曲】

①5月8日（火） 10日（木） 6月の幼稚園実習に向けての弾き歌い 計7曲

♪実習園の曲（実習園から出された課題曲・園歌など）

♪季節・行事の曲4曲（雨・時計・父の日・小動物・歯に関する曲など）

♪生活の曲3曲（朝・昼・お帰りなど）

<6月実習終えたら夏の保育園実習と10月秋の幼稚園実習の弾き歌い、また、就職試験曲も念頭に入れて練習>

②7月3日（火） 5日（木）

♪エチュード

③7月24日（火） 26日（木） 保育園実習と10月幼稚園実習に向けての弾き歌い

♪夏の曲 ♪秋の曲 ♪実習園の曲 計8曲でテストは3曲

④11月6日（火） 8日（木）

♪就職試験のためのエチュードと弾き歌い（各自の選曲）

就職試験のためのテストを終えたら「冬の子どもの曲」が課題（200選・続200選より）

♪たきび ♪こぎつね ♪コンコンクシヤンの

うた ♪かぜさんだって ♪いぬのおまわりさん
♪うれしいひなまつり

⑤12月11日(火) 13日(木)

♪冬の子ども曲 弾き歌い

「冬の子ども曲」のテストを終えたら「連弾曲」

⑥H25年1月29日(火) 31日(木)

♪連弾曲

以下に本報告のサブテーマでもある、本学幼児教育学科専門科目「保育と音楽表現」のなかで行っている「音楽あそび」の指導について報告する。

<保育と音楽表現>

この授業は本学幼児教育学科2年生が幼稚園免許及び保育士資格を取得するための必修授業である。90分授業の中で「ピアノ実技レッスン」と「手遊び歌、生活・季節の曲に於ける歌唱指導、弾き歌いのポイント指導」の2つをそれぞれ前半と後半の2グループに分けて行うものである。前半と後半の入れ替えを入れると正味40分ずつ、約20人の学生を対照として交互に指導する授業となる。

今年度の紀要には「手遊び歌、生活・季節(弾き歌い)に於ける歌唱指導」を重点に報告することとした。

授業の目的としてまず、2年生の6月に行われる10日間の幼稚園実習、8月9月にまたがって行われる20日間の保育園実習、10月に10日間行われる幼稚園実習のための準備が大きく、この準備は保育職として、とても重要なものであると言っても過言ではないと思われる。

保育職として、手遊び歌や生活曲・季節曲の弾き歌いは必要不可欠であり、園児の生活や教育にも大切な一部分であるため、保育者養成校の本学幼児教育学科でもこの授業を実習のみならず、就職してからでも生かしてもらいたいねらいもある。

また、実技面だけではなく実習に際して、そして保育職を目指すことに際して、本気・やる気と言った意識改革、笑顔、反応、気付き、行動、イメージ、積極性、女優になる(先生になりきる)などの、精神面を含めた内面性を育む指導もこの授業に於いては重要視している。

【授業内容】

導入に向けて

前期は実習に向けてまず、人前に出ることに慣れる意味を持って、毎回の授業で一人に先生役になってもらい、他の学生達を園児に見立てて出席を取ってもらう。先生として出席を取ると言う事は、複数の園児の前で終始笑顔でその日の天気や季節・出来事などを、どのように声かけをするかも大切であり、「先生」と言う立場を演じる、「女優」になりきると言った導入を行っている。

昨今、複数の子どもと関わる機会が殆どなく、1対1または1対2程度の関わりしか経験していないことから、複数に慣れて緊張を和らげていき、複数の子どもの気持ちをいかに引き付けるか、また、一度に向けられる複数の反応にどう対処できるかもねらいである。

「手遊び歌」や「弾き歌い」は一人の子どもだけではなく、複数の子どもに対しての実演でもあるため、対複数への抵抗を無くすために着任当初である8年前より行っている。

本学幼児教育学科では「体験学習」と言う授業で、保育者がどのように子どもと関わっているか、どのような声かけをしているのか、子どもがどんな遊びをしているか、年齢別にどんな歌を歌っているのか、などの学習を本学園附属幼稚園で体験させて頂いている。この「体験学習」で初めて複数の子どもと関われる学生が殆どであり、学生の感想として、子どもと関われるのは楽しいが戸惑うことも多々あると話している。そのため複数の子どもの前で導入を含めたどのような声かけができるかが最初の課題である。

出席の取り方の例としては、梅雨時分に先生役の学生が「今日は雨が降っていて残念だけど、先生は歩いていると池のほうから元気な鳴き声が聞こえてきました。何の鳴き声かわかるかな?」と尋ねると、園児役の学生が「かえるさん!」と答え、先生役の学生が「そうだね!かえるさんだね。では今日はお名前を読んだらかえるさんの鳴き声でお返事して下さいね。」と言って出席を始めることとなる。また、元気な鳴き声や小さな鳴き声などの返事に対しても反応を示してあげる声かけをし、先生と園児の関わり方のイメージを少しず

つ持つことができる。そして♪かえるの合唱や♪だから雨ふりなどの梅雨時分に出没する「かえる」をテーマにした曲を子どもと一緒に歌ったりすることで、季節を感じるができる導入に発展すると思われる。

手遊び歌

子どもが大好きな「手遊び歌」は、季節に因んだ曲やお集まりやお帰り、静かにさせたい読み聞かせの前、数字に興味を表す年齢、スキンシップを必要とする時など、どんな場面に使うかも大切である。また、手や指、体の動きが中心になりやすく、音程がはずれて「歌」がおろそかになりがちになることに注意しなければならない。

2年生になって初めてのこの授業では春なので、「小さな庭」「ちっちゃないちご」「キャベツのなかから」「あなたのおなまえは」「あくしゅでこんにちは」を行っている。例えば「キャベツのなかから」では、最後にグーの手を親指から小指までを1本ずつ出していくのだが、その部分を年齢に合わせてテンポをゆっくりしてみたり、軍手にお父さんから赤ちゃん指までの顔を描いて、ちょうちょうになる部分を手の甲に描き、キャベツが大好きな「青虫」から「ちょうちょう」になる過程を教えることができる。「あなたのおなまえは」では、クラスが変わり担任の先生も変わることで、先生が歌いながら子どもの名前を呼び頬や頭をなでるスキンシップをすることで、先生と子どもの関係を深くし子どもに安心感を持たせることができる。学生同士2人1組で先生役と子ども役に分かれて実際にしてみると、学生達は何も指導しなくても笑顔で楽しく取り組んでおり反応が良かった。

その他、授業で取り組んだ「手遊び歌」の一例を挙げると、「はじまるよはじまるよ」「ぴかチュー」「とんとんとんひげじいさん」「パンやさんにおかいもの」「はみがきのうた」「ねずみのはみがき」「フルーツパフェ」「いっちょうめのおやさん」「ミッキーマウスマーチ」「アンパンマンのおでかけ」「おべんとうばこ」「サンドイッチのおべんとうばこ」「魚がはねて」「ピヨピヨちゃん」「グーチョキパーでなにつくろう」「カ

レーライス」「八百屋のお店」「じゅんびたいそう」「いわしのひらき」「ピクニック」「一本ばし二本ばし」「やきいもグーチーパー」などである。

その中で「フルーツパフェ」を取り上げてみると、「手遊び歌」としては5、6歳児向きであり少し難しいようだが、これを年齢の低い子どもにも楽しんでもらう方法として、エプロンシアターやパネルシアターを使用するととても効果的である。パフェの容器をエプロンの中心に作り、ポケットの中にこの曲に出てくる果物や出てこない果物もフェルトで作し、その果物にマジックテープを貼って歌いながら中心に作ったパフェの容器に貼り付けていくのである。先生と子どもが歌いながら貼っていくのも良いが、子どもにポケットから探させて貼り付けさせたり、曲の中にはない果物を置き換えてみたりとバリエーションは豊富である。学生が実習で行ったところ、子どもがとても喜び何度でもしてほしいとせがまれたようである。

「手遊び歌」の年齢に見合った曲を選択する見極めだが、例え4、5歳児用と思われても、曲によっては未満児～2、3歳児でも使うことはできる。4、5、6歳児は自分自身の手や指を上手に使えるようになり、高度な曲にも挑戦したくなるようだ。一方、まだ上手に自分自身の手や指を動かさない年齢の低い子どもには、対面で膝に乗せて子どもと向かい合い、手や指を先生の手で動かさせてあげる方法や、その曲通りでなくても子どもが動かしやすい歌と動作に少し変えてみる方法もある。また、お座りがまだできない未満児にも、歌いながら手や足、または体を触ったり動かしてあげるとスキンシップも兼ねて良いと思われる。

以上のことなどを曲ごとに指導していくことで、ただ譜面上にあることをその通り覚えるだけでなく、どのような場面でどのような使い方があるかを考えて実習に生かしているようである。

生活・季節の曲（弾き歌い）に於ける歌唱指導

一言で言うならば「弾き歌い」であるが、この「弾き歌い」は毎年どの学生もピアノの「伴奏」がネックになり、「歌」が聞こえずおろそかになってしまう傾向が強いのが課題である。「伴奏」を弾きこなすのも容易ではない学生にとって、「歌」

は二の次になってしまい、笑顔がなく表情は暗く、口は開かず、発音（滑舌）が不明瞭と言った按配である。

「弾き歌い」の練習方法として簡単に挙げれば、ピアノの伴奏のみの練習とメロディーを歌う練習を別々に行ってから一緒に練習するのが良いのだが、なかなか簡単にはいかず、「歌」が好きな学生や「良い声」を持っている学生が力量を発揮するのが難しいのは残念である。

「伴奏」に於いては、ピアノ実技レッスンで指導して頂くため、歌唱指導を強化したく取り組んできた。

まず、授業に関係なく普段より口角を上げての笑顔を絶やさないこと。表情筋をアップさせて使うこと。口をしっかりと開けて動かすこと。腹筋は勿論、腰筋や背筋も使い、「声」を「体」や「マスクラ」を意識して出すことを毎回指導してきた。発声の前に上半身を柔らかくする運動や、表情筋を動かす運動、そして「アエイオウ〜ウ、カケキコククク・・・」と五十音字をマスクラでしっかり発音するところから始め、音階を半音ずつ上げていく発声やスタカート発声などを取り入れて「声」を出すイメージも指導した。

女性のクラシック発声はファルセットで統一されているが（胸声は別）、学生が「子どもの歌」を歌う場合、全音域をファルセットで歌うことは無理があり、また逆に、例えきれいな地声であっても全音域をそれで歌うことは不可能である。そのため、学生一人ひとり違う声質に対して、ファルセットになる「チェンジ」の場所を教えると歌いやすくなるのは当然である。授業でその「チェンジ」を教えることができた学生は時間の都合もあり少なかったが、声が出やすくなったと言う感想・意見が大半であった。

子どもに歌を教える時も、元気の良い声と勘違いされているありがちな怒鳴り声を出させるのではなく、「きれいな声・きれいな歌い方」を教えるようにと指導してきた。子どもに悪いお手本と良いお手本を聞かせてみると、良い歌い方をきちんと見極めている。実習や社会人として保育職に就いた折には、子どもの音域を考えて授業で行っ

た発声法を試し、「きれいな声・きれいな歌い方」とはどんなことかを教えてもらいたいと切に願う。

「子どもの歌」には当たり前だが歌詞があり、子どもが理解できるようにその意味を教える必要がある。そして曲のイメージを湧かせることもとても重要なことである。勿論教える側に立つ先生も同様でなければ伝わらない。保育職を目指している学生にイメージを湧かせるために「歌詞読み」を何度もしっかりと行った。言葉を正確に理解し、マスクラで発音し、その曲でどんなことを感じるのか、どんなことを伝えたいのか、心の底からその思いを表現するための手段である。この「歌詞読み」によって、歌詞の内容や情景を浮かべられ歌う意識も変わってきた。歌う意識が変わることで声も出るようになり、感情移入が成され、表現力もついてくるのである。字をまだ理解できない年齢の子どもにも、字を理解できるようになった子どもにも、歌を教える際は「歌詞読み」は大変効果的である。まるで絵本の読み聞かせのように「歌詞読み」をすることで、子どもなりのイメージや情景が浮かび、曲によってではあるがきれいな声を出す方向に向いていきやすい。また、取り組む曲の「絵」を描くことも、イメージを湧かせることや、曲を理解することに大変効果的であった。例えば、「ぞうさん」は親子愛を感じさせる曲なので、母親象に寄り添う子象の姿の絵や、母親象が子どもをやさしく包み込む絵、子象が母親象と戯れる絵が多く、学生は十分に親子愛を感じていた。その描いた「絵」を見ながら読み聞かせのように「歌詞読み」をすると、何も考えずに「歌詞読み」をした時と全く違い、歌自体も愛情を感じる声や歌い方に変っていた。学生もその変化に気付くことができ、今までと違った感じることのない歌うことの楽しさへの達成感の顔が見られた。「あめふりくまのこ」でもやはり絵を描くこと、ペープサートや紙芝居を作って絵本の読み聞かせのように「歌詞読み」をするよう課題にした。「あめふりくまのこ」は1番から3番までの後に間奏が入り5番までの歌詞がある。物語調になっているため、間奏を含めた5番までの絵や紙芝居を作成するには取り組みやすく、ペープ

サートも工夫があり、肝心な「歌詞読み」も感情が込められて、内容が子どもでも理解できる形になってきた。しかし、学生によっては一人ではなく複数の前で「歌詞読み」をするのでさえも恥ずかしいと言う気持ちが先にたち、イメージが湧くような読み方にならないこともあり、その場合はどんな情景が浮かぶかを少しずつ引き出していき、フレーズごとに何度も読ませてみた。「おおきなくりのきのしたで」では、1番を楽譜通りに歌い、2番を「ちいさなくり」に歌詞を変えて強弱も弱くした形で歌い、3番は短調にして怖いイメージを持たせ「おぼけのくり」に変えて歌ってみた。学生が実習で使ったところ、子どもにとっても好評であったようだ。「うれしいひなまつり」の曲の導入はまず、雛人形の飾りにどのような人形が登場しているか、そしてどのように配置されて何が飾られているかなど質問してみると、最近は古典的な五段飾りではなく、お内裏さまとお雛様のみ飾り人形が多いため、半数の学生が五段飾りで飾られている様子が浮かんでこなかった。課題を前もって出していたのにもかかわらず、きちんと調べていなかったため、知っている学生に古典的な五段飾りの雛人形を説明させ、当然指導する立場の私からも昔ながらの雛人形の飾りを補足説明した。そこからイメージをふくらませ、歌詞に出てくる「さんになかんじょ（三人官女）」や「ごにんばやし（五人雛子）」また、「右大臣・左大臣」がどんな役目をするのか、主役の「おだいらさま（お内裏様）」と「おひなさま（お雛様）」がどんな気持ちなのかなどを発表をし合い、最後は学生自身が五段飾りの雛人形に扮し、それぞれが役になりきって歌う「うれしいひなまつり」で仕上げた。

このように、発声して声が出るようになっても、ただ歌うだけではその曲が何を伝えたいのか感じられず、心のない歌になってしまうため、イメージを持つことで感情移入ができ、表現力もついてきて楽しく歌えるようになった。自らの体験も踏まえながら考え指導してきた。

授業で取り組んだ「生活・季節の曲」の一例は下記の通りである。

「おはようのうた」「おかえりのうた」「はをみ

がきましょう」「おべんとう」「とけいのうた」「はやおきどけい」「あめふりくまのこ」「雨ふり水族館」「しゃぼんだま」「大きな古時計」「ながぐつマーチ」「おとうさん」「ニャニユニョの天気予報」「すてきなパパ」「うみ」「おぼけなんてないさ」「アイスクリーム」「ありさんのおはなし」「おつかいありさん」「南の島のハメハメハ大王」「みずあそび」「アイアイ」「ぼくのミックスジュース」「とんぼのめがね」「いもほりのうた」「どんぐりころころ」「まつぼっくり」「森のくまさん」「パンダウサギコアラ」「とんでったバナナ」「なみとかいがら」「花火」「村まつり」「うんどうかいのうた」「もみじ」「まっかな秋」「きのこ」「ゆうやけこやけ」「赤とんぼ」「おおきなたいこ」「やまのおんがくか」「にんげんていいな」「おんまはみんな」「さんぽ」「世界中のこどもたちが」「はじめの一步」「カレンダーマーチ」「北風小僧の寒太郎」「パレード」「ホ！ホ！ホ！」「みんなともだち」「ふしぎなポケット」「いぬのおまわりさん」「てのひらをたいように」「ハッピーチルドレン」「小さな世界」「ミッキーマウスマーチ」「バスごっこ」「ドロップスのうた」「せんろはつづくよ」「思い出のアルバム」「うちゅうせんとうた」「うたえバンバン」「まめまき」「こぎつね」「たきび」「コンコンクシャン」「あわてんぼうのサンタクロース」などである。 ※作詞・作曲者は省略

前年度まで後期はこの授業を行わず、就職試験のためのレッスンの時間としていた。しかし、後期に入って歌の授業がなくなることで、出るようになってきた「声」が出にくくなり、冬と春の季節の弾き歌いのテストにも影響を及ぼしてしまう。また、集大成とも言える10月の幼稚園実習を終えて、学生がどのように成長したかの確認や、保育職に就くための振り返りに必要だと言うことで今年度は後期もこの授業を継続した。

2.8 幼児音楽指導法（保育内容）・音楽Ⅰ・音楽Ⅱの連携について

本年度（平成24年度）昨年度よりもう一步「コード伴奏法」との連携を深めた。また新たな試みと

してグループ発表や簡易小打楽器による「子どもの歌」の簡単な編曲とそれを題材とした指導案の作成に取り組んだ。毎年実習において指導案が「上手く書けません」という指摘を受けることへの対応策の一環として始めることとした。

3. 音楽担当者会議について

平成18年度より年に1回、当年度の総括と次年度へ向けての方針などについて会議を行っている。以下は、平成23年度音楽担当者会議（第6回）の記録である。

子どもの歌と伴奏法

- ・初心者が多くエチュードがなかなか進まなかった。
- ・バイエルを終了している学生は3分の1弱程度で、バイエル後半（80番台～）は2分の1程度である。
- ・バイエル終了後の課題曲として、ギロックやブルグミュラーなど他の曲を何曲か取り組んでからソナチネに進む学生と、実力があれば一足飛びにソナチネに進んでも良いのではないか。
- ・バイエル終了後に弾きこなす実力があってもすぐにソナチネに進むより、弾き歌いの曲を強化するために表現力を高められるよう、ギロックやブルグミュラー、ショパンの「エリーゼのために」など、表題のある曲を課題として練習させた方が良いと思う。
- ・弾き歌いは「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」「おつかいありさん」もすべきだった。
- ・弾き歌いのテストの場合、1番のみではなく3番までや5番まである曲などは、1番だけではなく2番や3番なども提示してさせる方が良い。
- ・エチュードとコード奏法のテストを同じ時間に一緒にできないか。H23年度は別々にテストをしたことで、時間的なロスやリンクするのが難しかった。
- ・H24年度はカデンツを最初に徹底させたい。
- ・レッスン記録の書き方に大きな差があるため、内容をしっかり記録させる指導がひつようである。
- ・授業以外の補習レッスンは昼食時間もきちんと持たせ、過度にならない程度にしてほしい。
- ・コード奏法について、各教員間の共通理解を図るためにも勉強会をしたい。
- ・3月30日に18時30分～ヤマハで勉強会をする予定である。
- ・コード奏法は、とてもできる学生、とてもできない学生がいるわけではなく、中間的で出来栄えだった。ただ、興味のある学生はどんどん活用していけ、実習や卒研でも役に立っていた。
- ・来年度最終的には、右手をコードで左手をルートで弾いて、しっかりメロディーを歌えるようにしたい。
- ・音楽基礎能力テストを始業して3回目くらいの授業で行ったが、簡単な楽典である基礎能力が身につけておらず、初歩から指導して勉強させなければ大変である。読譜は勿論、ヘ音記号やト音記号の意味と書き方から、音符の長さなどの理解が大変乏しい。
- ・音楽基礎ゼミナールについては、時間を取るのがとても難しかったが、5回の基礎ゼミはやはり実施して良かった。学生自身も受講して良かったとの感想が殆どだった。ただ、この基礎ゼミを受講して学んだことを忘れず継続できるかが問題である。
- ・来年度も実施してほしい。
- ・幼児音楽指導法との関連について、幼児音楽指導法が必修科目ではないため、履修を取り止める学生が一人いた。この授業（子どもの歌と伴奏法）とリンクさせたいため、ピアノの先生からも勧めてほしい。
- ・貸し出しロッカーの鍵をそれぞれの非常勤講師にも持たせてほしい。時間のロスを防ぐため。
- ・カセットデッキを使用して練習に励んでいる学生が多かった。

音楽Ⅱ *平成24年度より授業名が「保育と音楽表現」に変更となる

- ・11月の就職試験のための学内でのテストで、バイエルを弾いた学生がいたが進度が遅いだけではなく、テスト曲としてふさわしくないの考える必要がある。
- ・コード授業を受講したことで、自分のスタイル

をみつけて弾ける学生が増えてきた。

- ・手遊び歌の授業はまず、人前が出ることに慣れるため、「先生」を演じてお集まりを設定しての声かけから始まり、正しい音程、正しいリズムでいつどんな時に、何歳児に向いているかなどを指導していることで、学生は興味を持ち楽しんで授業に臨んでいた。「弾き歌い」を一人ずつさせてみると、人前での演奏に慣れることを試みたが、「一人の時は弾けるのに・・・」と言う学生が多かった。
- ・ピアノ伴奏でいっぱいいっぱい、歌唱法（笑顔・表情筋アップ・体を使うことなど）に支障があった。「歌詞読み」や「イメージ」を持つための指導をしてきたが、まだまだ定着しておらず、学生の意識改革をさらに重要視していきたい。
- ・2年生の最後になってもバイエルが終了できずうやむやになっている学生がいる。

4. ピアノ個人レッスンサポート講座の実施

毎年入学生のピアノ初心者が増加しており前期の内にピアノの進度について行けないことを理由に休・退学する学生をなるべく出さないために、本年度（平成24年度）新たに、新入生を対象に入学前教育として「ピアノ個人レッスンサポート講座」を計画実施した。この講座実施に当たっては「長崎女子短期大学幼児教育学科平成25年度新入生のためのピアノ個人レッスンサポート講座テキスト」を作成した。又、これとは別に入学までに少しでも音符に慣れ鍵盤に慣れて欲しいという願いから読譜の課題も出した。

5. おわりに

平成17年度長崎女子短期大学紀要第30号掲載の「保育者養成校における音楽指導法の研究－第1報－」に続き今年度（平成24年度）はその第7報として「音楽あそびの指導法」と、8年間にわたり保育者養成における音楽指導法を1科目に止まらず保育者養成のための音楽教育のくくりで「計画→試みる→評価する→課題を見つける→対応・改善を検討→計画する」いわゆるPDCAサイクル

ルとほぼ同様の考え方で報告することができたのではないかと考える。

参考文献：

- 1) 白石景一、中村浩美、(平成17年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第1報－」『長崎女子短期大学紀要第30号』
- 2) 白石景一、中村浩美、(平成18年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第2報－」『長崎女子短期大学紀要第31号』
- 3) 白石景一、中村浩美、(平成19年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第3報－」『長崎女子短期大学紀要第32号』
- 4) 白石景一、中村浩美、(平成20年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第4報－」『長崎女子短期大学紀要第33号』
- 5) 白石景一、中村浩美、(平成21年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第5報－」『長崎女子短期大学紀要第34号』
- 6) 白石景一、中村浩美、(平成23年度)「保育者養成校における音楽指導法の研究－第6報－」『長崎女子短期大学紀要第36号』